



川でつながる物語

過去、現在、未来

陸と海

人と地域

文化と産業

生活とアート

子どもと大人

CONCEPT

柏原の歴史、文化、産業を語る上で「大和川」の存在は不可欠です。時に災いをもたらしたが、地域に大きな恵みを与えてくれる存在でした。混迷する日本社会、そして消滅可能性をもちつつある都市柏原において『川』を通して自らの価値を再評価すると同時に新たな文化(アート・デザイン)との出会いにより柏原の価値を創造することで地域のアイデンティティを取り戻し、未来へと語り継いでゆく。それが「川Narra柏原(柏原川物語)」構想です。

<第一弾>

※NarraはNarrative(物語る)の短縮造語

シン・柏原船 Project

(1) シン・柏原船

かつて、河内と大阪中心部との水運を担った「柏原舟」。それを現代に蘇らせるとしたら、どんな形で、そこには何を積み込むのでしょうか? そんな「シン・柏原船」のデザインを小中学生から募集し、実際に形にするプロジェクト。そのプレ企画として、以下のワークショップを実施します。



(2) 「未来に届けたいモノ」展 ～タウン・ミュージアム

シン・柏原船に乗せて「未来に届けたいモノ」をテーマに、広く一般募集します。思いのこもったモノ、アート作品、写真など、その理由とともに展示します。展示会場は、柏原市内の公的施設、空きスペース、店舗のショーウィンドウを想定しています。(10月末頃を予定)

キッズアートセンター&レミダ (構想)

<アートセンター>

子どもが、家庭ではできないダイナミックな表現遊びを自由に体験できる場。アーティストによるWSも開催。

<レミダ>

レミダは、クリエイティブリユースセンターの別名で、地元産業から出る廃材・端材を、子どもの表現素材として活用できるように分別・整理し、教育施設などに提供する施設で、子どもの創造意欲を掻き立てると共に、環境意識を高めることを目的とします。

